

令和元年度 湖山西まちづくり協議会 会員名簿

(敬称略)

役職	氏名	所属
委員	中村 哲也	消防団湖山分団副分団長
	小松 利光	壮年団長
	佐々木 善規	湖東中 PTA
	小林 正文	交安協支部長
	藤原 慎一	西小 PTA 会長
	田住 澄恵	更女代表
	廣田 俊記	健推まち協担当
	麻木 洋子	食推まち協担当
	番磨 振作	自治会理事
	藤田 好雄	自治会理事
船越 純次	自治会理事	

役職	氏名	所属
会長	綾木 隆	自治会長
副会長	渡辺 琢也	自治会副会長
	星見 健蔵	社協会長
理事	今井 久仁子	民児協会長
	森本 捷昭	老ク連会長
	濱田 忠司	体育会長
	大久保 弘	子ども会長
	松越 喜久雄	自治会副会長
	影井 喜代次	自治会副会長
監事	竹本 清博	自治会
	川上 正義	自治会

役職	氏名	所属
事務局長	平家 裕一	公民館長
事務局	柳田 恵美子	公民館主任
	安美寺 智広	公民館主事
	森本 美佐枝	公民館主事

役職	氏名	所属
顧問	藤縄 喜和	鳥取県議会議員
	星見 健蔵	鳥取市議会議員
	松田 晃一	湖山西小学校長

平成三十一年度 定例議会開催

四月二十一日(日)に平成三十一年度湖山西まちづくり協議会定例総会が開催されました。事業計画・収支予算・役員選任について協議可決し新年度のスタートをきりました。

NEWS 湖山西 みんなのまちづくり 支え愛・助け愛のまちづくり

第28号 R1.9 発行

発行 湖山西まちづくり協議会  
責任者 会長 綾木 隆  
事務局 湖山西地区公民館  
連絡先 (〇)八五七  
三二一 三三八一

令和元年度 主な事業計画

日程	事業名	会場
5/26 (日)	湖山西校区運動会	湖山西小グラウンド
9/29 (日)	湖山西地区敬老会	湖山西小体育館
10/26 (土) ~ 27 (日)	湖山西ワクワクまつり	湖山西地区公民館
11/10 (日)	自主防災訓練	湖山西地区公民館
12/22 (日)	湖山西っ子のつどい	湖山西地区公民館

\*各事業の詳細についてはそれぞれ事前に、公民館だよりやチラシ等でお知らせしますので、ご確認をお願いします。

湖山西池北岸美化活動

五月十八日(土)に、今年度第一回目の『湖山西池北岸美化活動』として草刈り・清掃作業が行われました。初夏の青空の下、湖山西まちづくり協議会・綾木会長のあいさつで清掃作業がスタート。各町内会・各種団体・湖山西小学生等から約百四十名の方がボランティアとして参加して下さり、約600mの区間を1時間かけて、草刈り・ごみ拾いを行いました。

春になり大きくなった雑草を刈って下さった草刈り機部隊の皆さん、刈った草を丁寧に集めて下さった方、ゴミ拾いをしに遠くまで歩いて下さったり、側溝から大きなゴミを拾い上げて下さった方、保護者の方と一緒に一生涯懸命雑草を取ってくれたり袋に詰めてくれた子どもたち、湖山西池北岸はみちがえるほどきれいになりました。

私たちの大切な『湖山西池』を守る心はこうして受け継がれてゆくのだな、と改めて感じた北岸清掃でした。  
ご協力いただきました皆さま、おつかれさまでした、ありがとうございます。  
次回、第二回目の『湖山西池北岸美化活動』は、十月五日(土)を予定しています。各種団体の皆さま・地域の皆さま方、ご協力をよろしくお願いたします。

たくさんの方に参加していただきました。ありがとうございました。



皆さんのおかげでとてもきれいになりました。

第29回湖山西校区運動会

五月二十六日(日)平成三十一年度『第二十九回湖山西校区運動会』が開催されました。湖山西小学校グラウンドにて、九時から開会式の後、競技開始です。当日は運動会日和という雲ひとつない晴天に恵まれ、熱中症が心配されましたが、たくさんの方の参加を頂き大盛会となりました。

今年度も、湖山西小出身の中学一年生の皆さんにボランティア活動として色々なことに携わってもらい地域の皆さまと一緒に、良く働いてくれました。お疲れさまでした。これもまたひとつの伝統となっています。

また、西小の児童の皆さんに、運動会の文字入り鉛筆の記念品を準備しました。ほんの僅かな事ですが、『運動会に出てもらったよ』と、家に持ち帰り家族の中で話題のひとつにしてもらえた事と、推察しています。  
運動会の後は、公民館で西小の先生方とまち協の役員や地域の方有志とで、反省会・交流・懇親会を開催いたしました。先生方の自己紹介を頂いたり一緒にテーブルにつくことで、普段と違った姿を見ることが出来、とても和やかに楽しい交流会となりました。次年度も、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



綾木 大会会長のあいさつ



北4丁目チームの優勝!!

『公民館における若者のまちづくり事業』報告  
湖山西地区の伝統・文化の発掘と  
創造に向けた取り組みについて

湖山西地区公民館 館長 平家裕一

公民館における若者のまちづくり事業において、湖山西地区に古くからある伝統を見つけないことや、新しい魅力を発見・創造することを念頭に、鳥取大学地域学部の学生と協働し、この地域における現状を調査し議論を行ってきた。湖山西まちづくり協議会の総会においても、取り組み内容の経過を報告しながら今年度の総会では、検討委員会の提言を受けて、組織内に検討する場を設け進めていく事としました。今後、検討委員を設置し、湖山西地区の文化の継承・創造のため具体的な検討を進めていきます。

1 湖山西地区における文化の創造と継承について調査概要(提案要旨)

(1) 調査概要

新たな文化として、麒麟獅子舞を継承する際の課題の検討と、それに対する提言を行うことが目的である。松高神社麒麟獅子舞保存会の会長である国富氏へのヒアリング、練習の見学を行った。現状の把握、課題の整理を行い、湖山神社宮司さんへのヒアリング結果も考慮した。



松高神社での現地学習(H.30)

松高神社は慶応年間に神社として存続しない時期もあったが、明治20年に松高神社は湖山神社の摂社として認められ、現在に至る。この松高神社では、毎年10月に祭礼が開催され、そこで獅子舞が披露される。湖山西地区の5町内会(新田、大寺、堀越、砂丘、塔ノ角)に住む神社の氏子での世帯を1日半かけて訪問、舞を披露する。宮出と宮入では30分もの本舞を踊り、その後、100軒弱の場所まで舞を披露するため、舞を踊る人は交代をしながら回る。舞の披露は氏子宅に限らず、企業や福祉施設にも訪問し、無病息災や健康祈願、商売繁盛などを願い舞われている。

(2) 現在の状況

現在は、松高神社麒麟獅子舞保存会が中心となっており、伝統の継承と祭りでの舞の披露を担っている。保存会は、平成8年9月3日に発足し、現在67名の会員が所属している。青年団の廃止以降は壮年団が中心に担っていたが、現在は松高神社麒麟獅子舞保存会を中心とした体制になっている。麒麟獅子舞の伝承のための団体として、県教育委員会の国指定の重要無形民俗文化財因幡の麒麟獅子の連合会(仮)があり、松高神社は参加を申請している。重要無形民俗文化財に登録されると、用具等の修理費補助が認められる。

(4) 課題

松高神社麒麟獅子舞が持つ課題として以下の3点を挙げる。1点目は、氏子でなければ獅子舞に直接的に参加できないため、氏子が確保できなければ継承が不可能である。現在は神事であるので男性のみを主体として活動しているが、女性も加えなければ

維持が不可能な状況になっている。(会長の国富氏談)。中高生への積極的な声掛けも行っているが、氏子でないことを理由に参加を拒む事例も出てきている。獅子舞を湖山西地区全体の祭りごととし、獅子舞を披露する場が増加しても、担い手が減少すれば不可能となる。

2点目は、麒麟獅子舞を見る人について、宮出や宮入等の本舞を披露する時には、多くの人が見物に来るが、そのほかは限られた人のみしかいない。獅子舞に賑わいを持たせる工夫が必要だろう。最後に、3点目は、情報発信についてだ。麒麟獅子舞を今後、湖山西地区全体の伝統や文化として波及させていくことや、新たな伝統・文化として浸透させるには周りの理解が必要不可欠であり発信する内容、対象を明確にさせて情報提供を行う必要がある。以上3点が松高神社の麒麟獅子舞の抱える課題であると分析する。

(5) 提言

これまでに述べた現状、課題を踏まえて松高神社の麒麟獅子舞を湖山西地区の新たな文化として継承していくための提言を行う。課題として、第一に継承する担い手の不足と第二に観覧者が少数であることを挙げた。この課題を乗り越えて湖山西地区の文化として麒麟獅子舞を継承するためには、湖山西地区全体が麒麟獅子舞を「まちづくりとしての文化」として受け入れ、波及していくことが望ましいのではないかと考える。松高神社の麒麟獅子舞は歴史もあるが、「限定的な地域の文化」、「由緒ある純粋な文化」であり、獅子舞を地区全体に波及していく状況が発生している。また、古くからある町内、新しい町内が混在し、文化への意識のギャップがあることも確かだ。しかし、今後の少子高齢化に伴う人口減少を考えると文化の継承が難しくなり、自然に消滅してしまう可能性は大きい。限定的な地域の文化だからといった意識では文化の継承、創造は不可能である。松高神社の麒麟獅子舞は、「由緒ある純粋な文化」であり、「まちづくりとしての文化」として地区全体で受け入れ、協力して継承し、地域を盛り上げることが今後必要だろう。まとめると、松高神社の麒麟獅子舞は継承等の課題を多く抱えており、今後の継承は厳しくなっていくことが予測される。この取り組みを湖山西地区全体の文化として波及させるには、「由緒ある純粋な文化」に加えて「まちづくりとしての文化」となるように自治会が連携し取り組み、地域を盛り上げていく一つの柱として動くのはどうだろうか。

2 北四音頭

(1) 調査概要

北四音頭を湖山西地区の文化として復活させる際の課題の検討と、それに対する提言を行うことが目的である。

(2) 北四音頭の概要

北四音頭は、湖山町北四丁目で開催される納涼祭で、納涼踊りとして使用されていたが、踊りの輪の中に入るのは婦人部の役員ばかりといった、メンバーの固定化が問題だった。一度は廃止す



獅子頭(松高神社)

る方針が上がったこともあった。しかし、納涼祭で踊りがなくなることは寂しいという意見もあり、町内会の協力のもと継承する方針が定められた。方針は決定したがその後も開催される年、されない年と安定した継承は行われなかった。

(3) 現在の状況

北四音頭の現状について、現在は自然消滅して実施されていない状況だ。北四音頭は継承していくための基盤がないことで自然消滅して現在に至っている。また、若い世代の住民は、北四音頭が存在自体を認識しておらず、若い世代への継承は全く行われていない状況にある。

(4) 課題

課題を検討する前に、北四音頭を湖山西地区全体の文化とする際に考えられる方法としての歌詞を変更し湖山西音頭とする方法をベースとして課題の検討を行う。課題は2点ある。1つ目は歌詞の変更は作曲者の著作権の問題で難しいということである。歌詞を湖山西地区全体に対応させ、改編することは難しい。一方で、音頭を「北四のまま残したい」という思いが住民間にあることも事実である。

2つ目は北四音頭を湖山西全体の文化として「湖山西音頭」に改名する場合、既に湖山西公民館でされている湖山西音頭の折り返いである。旧湖山西地区で踊られていた湖山西音頭は、現在の湖山西地区でも踊られている。確かに現在の湖山西地区でも踊られている湖山西音頭をそのまま継承しても良いように思える。しかし、それはあくまで昔の湖山西地区だった時からの文化であって、湖山西地区としての文化とならない。湖山西地区ならではの文化を形成する必要がある。

(5) 提言

課題として、北四音頭を湖山西音頭への改編は著作権の面や湖山西音頭と合わせて2つの音頭が混在してしまうという点がある。以上のことを踏まえると、北四音頭はこれまで通り北四丁目継承基盤を整備し、北四音頭として継承していくことが望ましいだろう。湖山西地区全体としては、北四音頭のエッセンスを参考に類似の文化を検討すべきだろう。さらに、音頭を作り住民同士の交流がさらに促進されることも期待できる。

3 終わりに

私たちは、1年間湖山西地区に新たな文化を創造するにはどのようなすればよいのかについて調査と検討を行ってきた。自治会へのアンケートで出てきた松高神社の麒麟獅子舞と北四音頭に焦点を当て、伝統ある双方の文化的取り組みを湖山西地区全体で共有して文化の継承と創造をできないか検討した。このような文化は、地域を元氣のある場所にする、地域の団結力を高めるために有効な取り組みである。湖山西地区では、誕生して新しい地域のため、地区全体としての文化がない状況である。文化を新しく創造し、継承することは、湖山西地区をより豊かな地域とする一助に必ずなると考えている。最後に、この調査が湖山西地区の新たな文化創造についての動きのきっかけになることを願っている。



北四音頭(北四丁目納涼祭)